

一般講演 II

座長：大岡 均至（独立行政法人国立病院機構神戸医療センター）

⑥ C.trachomatis 誘発性反応性関節炎に 対し漢方を使用した経験

東邦大学 泌尿器科学講座

鈴木 九里、田中 裕貴、中島 陽太
山辺 史人、小林 秀行、中島 耕一

【はじめに】

反応性関節炎とは、先行感染症として泌尿・生殖器感染あるいは腸管感染後に発症する無菌性関節炎と定義されている。今回、クラミジア尿道炎後に反応性関節炎が疑われ、竜胆瀉肝湯にて改善した症例を経験したので報告する。

【症例】

症例は25歳男性。2か月前より右膝関節痛出現。当院整形外科受診し関節液を採取したが、培養陰性、白血球陽性であった。膠原病科を紹介され、尿中Chlamydia trachomatis (C. trachomatis)

DNA陽性のため泌尿器科を紹介された。受診時は排尿時痛、尿道違和感はなかったが、3か月前に2週間ほど排尿痛を認めていた。クラミジア尿道炎による反応性関節炎と診断しAzithromycin (AXM)を単回内服した。治療3か月後も関節痛改善せず、歩行困難となったため、竜胆瀉肝湯、セレコキシブを投与し、関節痛は徐々に軽快した。5か月後、歩行可能となった。

【考察】

竜胆瀉肝湯は四物黄連解毒湯を基本としており、四物湯と黄連解毒湯に竜胆・沢瀉・木通・車前子といった下焦の湿熱を改善する生薬群であり、前立腺炎や女性の外陰部の炎症などに用いられる。また、黄連解毒湯は上中下三焦の実熱を清する方剤である。これに四物湯を合方することにより、より強力で長期の使用にも耐えうる処方になる。C. trachomatis に反応性関節炎はReiter病(尿道炎、関節炎、結膜炎)の原因の一つと言われており、今回、三徴はそろっていなかったが、上中下三焦の実熱、特に下焦の湿熱の改善に効果のある竜胆瀉肝湯を用いたところ症状が改善した。我が国の全性感染症の約40%がC. trachomatisによるとされているが、それによる反応性関節炎はあまり認識されていない。クラミジアによる反応性関節炎は、近年、患者数が急速に増加していることが推測されており、尿道炎で受診する患者に対して注意が必要である。クラミジア反応性関節炎に対する治療は最近ではAXM+Rifampicin 6か月持続投与が推奨されているが、今回、AXM+竜胆瀉肝湯で症状が改善した。竜胆瀉肝湯の併用も選択肢の一つとして検討してもよいかもしれない。